

平成 30 年 4 月吉日

幼児教育関係者様

広島大学附属三原幼稚園
園長 木村 博一

幼児期の教育

荘 司 雅 子

フレーベルに依ると幼児は弱い存在であるよりは、寧ろ偉大な創造力を秘めている強い生命体である。彼は新しくこの世に生まれて来た子供は、恰も親木から落ちて来て、生命を自己自身のうちに操っている成熟した穀粒のような発展的なものであると述べている。しかもその発展は一般的な生命全体と絶えず精神的な関係を保ちつつ、自己活動的に自己自身から現れて来る。だから児童の活動や行動は総て目覚めつつある児童生命の現われと見なければならない。幼児がひとりで絶えず忙しく活動するが、これは総て幼児の内なる生命が自己発展をしているからである。

(中略)

真に健康な幼児は常に活動的で、絶えず何かせすにはいられない。彼等を見たもの、聴いたもの、触れたものを、再び自己の力で外に表わしたいのである。また自己のうちにあるもの、自己のうちに生き生きとしているものが、自己の外にもありたいと願うのである。これらのことをわれわれは子供の遊戯やままごと遊びの中に十分看取することが出来るであろう。子供の生活は悉く遊戯であるといわれている。子供の遊戯は大人の目には意味なきもの、価値なきもの見えるが、併し幼児にとってはそれは生活の具体的な活動である。しかも幼児はこの遊戯活動において生きており生活しているのである。従って幼児教育とは主として子供の生活の具体的な活動であるこの遊戯を育てること以外のものではない。この遊戯の中に子供の知、情、意等のあらゆる精神活動が含まれている。だからわれわれは遊戯において、また遊戯を通して子供の知識をひろめ、情操を涵養し、意思を陶冶する他はない。幼児教育の機関を学校と叫ばないで幼稚園とフレーベルがつけたのもこの意味からである。

このように考えて若し幼稚園の先生が花園における園丁の心遣いのように、人類の花である幼児の本性を研究し、自然的に幼児を一定の秩序のもとに、また楽しき遊びのうちに、幼児を導き育てるならばそれこそ真にフレーベルの精神に即した幼稚園であるということが出来る。また花園の中にある各々の花が園丁の行き届いた心遣いのもとに、他の多くの花とよく調和を保ちながら自己の個性や自己の個有の美を發揮してはじめて花園は全体としての美しさを發揮することが出来る。これと同様われわれの社会に住んでいる一人一人の人間がお互いの立場を尊重しつつ、自己の個性を發揮することに依ってはじめて明るいよい社会が現われて来る事が出来る。

広島大学教育学部附属幼稚園 (現：広島大学附属三原幼稚園)

創立四十周年記念誌より抜粋

フレーベル祭は今年で第 69 回を迎えます。フレーベル先生の生誕を記念し、幼児教育の原点に立ちかえる会とさせていただきます。

多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

広島大学附属三原幼稚園

園長 木村 博一